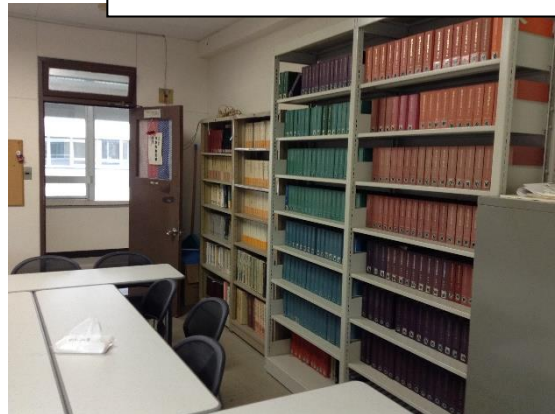


国際協働ゼミナールⅠC、ⅡC、ⅢC、ⅣC

担当教員：杉浦清志

演習室：1-229

写真は演習室です。部屋の両脇に並んだ書架に、主に古典文学関係の本が並んでいます。



当ゼミナールは日本の古典文学を中心的なテーマとします。古典文学の正確・詳細な知識を身に付け、世界に向けてその魅力を発信したいと考える人、中学・高校の国語の教員を目指す人、大学院に進んで更に研鑽を深めたい人は来てください。

ドナルド・キーンさんやロバート・キャンベルさんに限らず、今や世界中に日本文学を研究する人がいます。1300年にわたる日本文学史は多くの魅力的な作品を生み出し、万葉集、古今集、伊勢物語、源氏物語、枕草子、平家物語、方丈記、徒然草、奥の細道といった日本でも著名な作品はもとより、日本では余り知られていない『とほずがたり』のような作品も、世界中の言語に翻訳されて人気を集めています。こうした日本文学を研究する外国人達の共通語は当然のことながら日本語です。各国語に翻訳された作品を読んで魅力を感じた人達は出来れば日本語で読みたいと考え、日本語を学んでいます。そしてキーンさんやキャンベルさんクラスの研究者にもなれば、普通の日本人以上に日本語や日本文化の知識を持ち、そうした知識を日本人に教えてくれたりします。今や日本文学は世界文学の一つであり、それを読み、味わい、研究し、教える人がどこの国や地域の出身者であろうと構わないのですが、その中に日本人の若者がいないという事態には、出来ればなってほしくありません。

このゼミナールは3年目前期に配属されるので、その時点ではどの作品、作者、時代、ジャンル等を自分の研究テーマにしたいかがある程度決まっていることが望ましいですが、その段階ではまだテーマは決まっていないが魅力は感じているとか、とにかく学んでみたいという人でも結構です。とりあえず何か一つの作品を選んでみんなで読むことによって読解力を身に付けて行きながら、各自のテーマを模索し、研究し、年に何度かそうしたテーマについての発表会を開きたいと考えています。

ゼミ配属の要件	日本の古典文学を卒論のテーマとすること。
ゼミ配属の希望	古典文学や伝統文化に興味・関心があること。

